

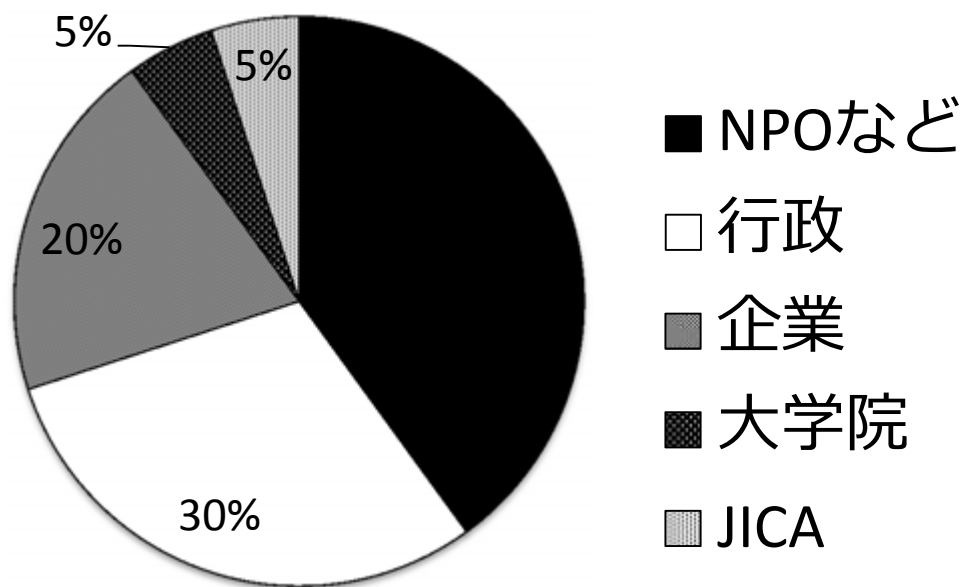
「ESDの10年」後の環境教育推進方策懇談会

公益財団法人キープ協会
環境教育事業部
シニアアドバイザー
川嶋直

私の守備範囲

自然体験型環境教育、インタープリテーション
環境コミュニケーション、ファシリテーション

御相手する対象は



あまり
経験がないのが
学校教育

全体像を見る「ESDと、環境教育と、〇〇と」

ESDは	教育の方向性を示し	「何に向かって」
環境教育は	教育の内容を示し	「何を」
〇〇は	教育の方法を示し	「どう」 教えるか

さて〇〇には何が入るのでしょう？

旧来の教育手法である「知識伝授型」の手法？

「参加型学習」「プロジェクト学習（学校教育）」

ESD・環境教育が期待する成果は？

「どれだけ覚えたか」ではなく

「意識が変わる」「行動が変わる」こと

一方的な知識伝授では、意識や行動の変容は困難
学ぶ動機とモチベーションが必要


ESDと環境教育の課題は？ - 1

環境教育の2つの誤解…

知らないから行動しない→ 知らせたら行動する（はず）
言ったら伝わる（環境教育に限りませんが）

ここで問題が…

知っても行動しない（人は多い）
言っても伝わらない（ことは多い）



孤立する
環境部

「エコ疲れ」（2010年頃）

「環境疲れ」（2011年：日経エコロジー）

「脅しの環境教育」では、モチベーションが続かない
ESD・環境教育には（このままでは大変なことになるぞ！）
という「脅しの教育」が多いのでは？

ESDと環境教育の課題は？ - 2

まだまだ多い、知識伝授型の環境教育
各省庁の研修施設などでも…

十分に浸透しなかった、学校教育での参加型学習手法
「総合的な学習の時間」の縮小

総合的な学習の時間こそ
参加型学習、プロジェクト学習のチャンスだった
…とても残念

提案は…

- 環境教育の「方法」に特化した

- ①人材育成のプログラム開発

- ②ファシリテーター型指導者の育成

この提案は、まるで新しくない。

しかし、まだまだ一般化されていない上記①②

これまで民間でチャレンジされてきた成果を
まとめ、整理して、普及してゆく必要

- ・環境教育の「方法」を徹底的に研究・開発する

- 参加型・OJT型の教育手法＝プログラム開発

- 人材育成する人材を育成する（先生の先生を育てる）

提案は…

- MOOCs や 反転授業 の手法を活かす
「MOOCs – Massive Open Online Courses」
大規模オンライン公開授業（講義）

自宅学習のITの部分ばかりが強調されるが、要点は教室…
教室で学習者が 質問し・教え合い・議論し・創造する
この場を作るファシリテーター型教師が求められている

集まらないと学べない時代からの変化

講義はネットで

教室に集まったら集まったからこそその学びの場を作る

この方法は、学校教育だけではなく
全ての教育の場に活かすことが出来る

「脅しの環境教育」から「希望の環境教育」へ
ESDは「心豊かな未来を描く練習」

意識変革と行動変容につながる
学び手のモチベーションがあがる

プログラム開発と
先生の先生の育成を

○川嶋直 (かわしま ただし)

(公益財団法人キープ協会環境教育事業部シニアアドバイザー)

1953年東京都調布市生まれ。26年間東京で生活、清里で34年目。1984年にキープ協会がネイチャーセンターを開設した当初から環境教育事業を担当。約30年に渡る環境教育の人材育成事業の経験の中から、「環境教育の指導者にはコミュニケーション力と企画力が必要」と痛感。自然の中での「自然とのコミュニケーション・人とのコミュニケーション・自分自身とのコミュニケーション」を通じた環境教育を実践中。企業や大学・行政など様々なセクターとのコラボレーションも進めている。

公益社団法人日本環境教育フォーラム常任理事／NPO法人自然体験推進協議会理事／日本環境教育学会理事／ESDの10年世界の祭典推進フォーラム理事／

著書：「就職先は森の中～インタープリターという仕事」（1998年小学館）

「KP法～シンプルに伝える紙芝居プレゼンテーション」（2013年みくに出版）

共著：「日本型環境教育の提案」 他